



つわの

6月定例会

議会だより

5月1日改選議員 16人



議会議務局長
齋藤 等

経済常任副委員長
岡田 克也

文教民生常任委員長
青木 克弥

総務常任副委員長
道信 俊昭

監査委員・経済常任委員
河田 隆資

文教民生常任委員
三浦 英治

議長
滝元 三郎

後山 幸次

議会運営副委員長・経済常任委員
竹内志津子

総務常任委員
米澤 宏文

文教民生常任副委員長
文

副議長・経済常任委員
沖田 守

京村まゆみ

総務常任委員
川田 剛

議会運営委員長・経済常任委員
齋藤 和巳

総務常任委員
小松 洋司

総務常任委員長
板垣 敬司

議会議務局臨時職員
金子 久代

経済常任委員長
村上 英喜

議長就任あいさつ・議会構成 2ページ

一般会計補正予算等 3ページ

一般質問 13人 4～10ページ

条例の一部改正 10ページ

請願・議員報酬等 11ページ

感染症外来建設事業状況報告・編集後記 12ページ

No.19

平成22年7月20日発行
島根県津和野町議会
Tel 0856-74-0089
E-mail gikai@town.tsuwano.lg.jp



津和野町議会

議長就任にあたって

滝 元 三 郎

早苗の緑も鮮やかな青野の山麓。

若鮎躍る高津川。

五月晴れの5月11日、臨時議会に於いて議長に就任いたしました。

近年、地方分権改革、地域主権ということが盛んに論議されています。

地方に何が求められているか。

もはや国になにもかもお膳立てしてもらった時代ではありません。

国の関与はできるだけ減らし、自分たちで暮らしやすく、元気な地域を作っていくことが求められています。

そのような観点から自治体議会の役割、責任はきわめて大きく重くなると考えております。

恒常的な財政難のなかで、地域医療、路線バス廃止に伴う地域交通体系の構築、定住対策、雇用創出等々、課題は山積しておりますが、自己研鑽に務め、町民のためになる議会、より存在価値のある議会を目指して誠心誠意努力してまいります。

町民の皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

5月11日に改選後初めての第3回臨時会で議会構成が次の通り決まりました。

議長 滝元 三郎
副議長 沖田 守

◎議会運営委員会

委員長 斎藤 和巳
副委員長 後山 幸次
委員 青木 克弥
竹内志津子

道信 俊昭
板垣 敬司
村上 英喜

◎総務常任委員会

委員長 板垣 敬司
副委員長 道信 俊昭
委員 米澤 若文
小松 洋司
川田 剛

◎文教民生常任委員会

委員長 青木 克弥
副委員長 竹内志津子
委員 斎藤 和巳
三浦 英治
京村まゆみ

◎経済常任委員会

委員長 村上 英喜
副委員長 岡田 克也
委員 後山 幸次
沖田 守
河田 隆資

議会選出監査委員

河田 隆資

益田広域市町村圏事務組合議会議員

滝元 三郎 ・ 沖田 守

齋藤 和巳 ・ 米澤 若文

鹿足郡環境衛生組合議会議員

村上 英喜 ・ 小松 洋司

三浦 英治 ・ 川田 剛

鹿足郡不燃物処理組合議会議員

青木 克弥 ・ 道信 俊昭

岡田 克也

鹿足郡養護老人ホーム議会議員

竹内志津子 ・ 京村まゆみ

6月定例会人事 議会推薦

津和野町農業委員会委員に

京村まゆみ議員を選出

農業委員会委員須川正則委員辞職に伴うもの。

任期は平成23年11月30日まで。

※今回の改選で議員定数が18人から16人になりました。

広報編集委員

委員長 村上 英喜

副委員長 米澤 若文

委員 岡田 克也

京村まゆみ

三浦 英治

川田 剛

一般会計補正予算（第一号）

1億2,028万2千円を追加

74億453万4千円を可決

6月定例会に提案された一般会計補正予算では、当初予算では削られていたものを、議会が提案し復活した定住支援対策事業をはじめ、灯油に変わる新しいエネルギーに関する事業、しまねの元気な郷作り事業、老朽化した小型動力消防ポンプ購入費（5台分）、小中学校屋内運動場の耐震関連経費事業など将来に向けた予算付けがなされたのではないのでしょうか。子ども手当の給付に伴い、当町においても既存の各手当や給付費も廃止となりました。

また、町民や観光客からも多く改善要望が出されていた津和野庁舎駐車場のトイレも改修されることになりました。

提案された一般会計並びに特別会計補正予算は、全て可決されました。

■主な一般会計補正内容

○財政管理費における減債基金積立金	3,100万円
○定住対策費	650万円
○新エネルギービジョン策定事業費	471万6千円
○木質ボイラー施設整備費における設置工事費	1,200万円
○児童措置費における扶助費	691万円
○しまねの元気な郷づくり事業補助金	118万1千円
○県営林道用地等補障費	238万4千円
○津和野庁舎駐車場トイレ改修工事関連	787万5千円
○小型動力消防ポンプ	663万5千円
○小中学校屋内運動場耐震関連経費委託料	761万7千円

特別会計補正予算

補正総額

国民健康保健	11億3,668万3千円
老人保健	21万4千円
介護保健	12億2,231万7千円
後期高齢者医療	2億9,127万6千円
簡易水道事業	3億27万2千円
下水道事業	3億936万3千円
農業集落排水事業	534万3千円
電気通信事業	2億4,249万7千円
診療所	1億2,096万9千円
介護老人保健施設事業	5億6,750万円
病院事業会計〈収入〉	6億9,941万4千円
// 〈支出〉	7億2,650万3千円



5台分購入予定の
小型動力消防ポンプ

第4回 6月定例会

会期：6月18日～6月23日まで

平成22年6月定例会を6月18日から23日までの会期で開催しました。今定例会では一般会計補正予算、特別会計補正予算、条例改正及び請願など提出され、議案を慎重に審議し、採決しました。

条例案件では、「津和野町国民健康保険税条例の一部改正」が提出され、議員から意見や経緯説明を求めるなどの発言が相次ぎ、採決の結果、賛成多数で可決されました。（詳細p10）

また、一般質問では新人議員を含め13人の議員が、それぞれ町の方針や対応、姿勢を問いました。

一 般 質 問

一票の重さは重大

◎選挙管理委員会



問 4月の町議会選挙は激戦であったが、最後はくじの抽選で決定した後、選管のミスがあり町民にお詫びの通知があったが、その後どうなったのか。

答 選挙管理委員会から、候補者や町民に疑念や動揺を与えたため、経過の公表を交えお詫びをしたとの報告を受けた。

その後、3名の方から意義申し出があり、選挙管理委員会に於いて協議したが、その1名の方は選挙権がなく、町外の人であり不適法なので却下した。他の1名の意義申し出は適法であったが、その主張には理由がないものとして棄却した。残りの1名は、当選の効力に関するものなので、当事者の方をお呼びし、面前で無効票を開被して、内容の投票について審査も行い棄却したということで決定したと報告を受けた。

村 上 英 喜

問 7月11日には、参議院選挙があるが、体制は現体制で実施するのか、二度と間違いが起こらないための対策について、選挙管理委員会の委員長に伺う。

答 次の参議院選挙は、選挙区と比例の選挙が同日に行われるので、町議選を踏まえ、職員体制については増員し、選挙事務においては、慎重を期し二重三重のチェックが出来る体制をとり、事務全般の見直しを図り再発防止と信頼回復に誠心誠意に努め、二度とこのようなことを起こさないという強い決意と緊張感を持って取り組む。

添 次の参議院選挙は、現体制で、実施することの答弁であるが、参議院選挙後には、選挙管理委員会として、何らかのけじめをつける必要があると考える。

その他の質問

※口蹄疫問題

※斎場事業

3 階病棟の早期再開と他の利用方法を



問 津和野共存病院の3階療養病棟の早期再開を望んでいる町民の方が大変多くいる。せつかくの施設であるので別の利用も含め、早急に検討する必要がある。

答 医療施設の場合、医療法や診療報酬に基づき、様々な施設基準をクリアする事が法律で定められている。

仮に共存病院3階の療養病棟を他の利用に転換する場合、介護保険に適応した施設にしなければならぬ。例えば専用の入口などリフォームが必要となり、新たな投資が発生する。

一方で現状の看護師不足のまま、療養病棟を再開するならば介護老人施設せらぎを本来の東棟のみの運営に減少させ、人員を津和野病院へ動かすという運営の可能性もあるが、これについても病院側の医師数が増えなければ実現は難しい状況にある。

斎 藤 和 巳

又、国の基本的な政策のもとで、一旦病床を削減してしまふと、再開は非常に困難であるので、慎重に検討しなくてはならない。このことは、益田圏域全体の療養型医療施設の配置や再配分の問題にも関連する。

いずれにしても、橋井堂との指定管理者制度がスタートして1年と2ヶ月であり、看護師、医師確保のために現在橋井堂と町が全力を挙げて対策を進めている。

以上のような状況を踏まえ、早急に結論を出すことなく引き続き療養病棟の再開に向け努力したい。



交通体系の確立を



河田 隆 資

◎交通体系の確立

問 全町高齢化が進み、移動手段の確立の必要性がささやかれ始めている。石見交通の撤退を機に当町でも早々に検討するとの3月定例会での答弁であったが、体系確立の基本理念と現在までの検討の進捗状況と今後の取り組みについて伺う。

答 一定のサービス水準を確保し、住民負担の公平性が担保された制度の構築を目指す。①交通空白地域の解消、②移動目的と路線別利用予測による配置車両の検討、③効率的な運行スタイル、④非常営利団体による輸送の可能性など、複合的で持続可能なシステムを構築する。以上の考え方の基「津和野町地域生活交通運行計画策定業務」をコンサルタントに発注している。すでに運行ルートの検討作業を行っており、複数の案を住民に示し、ご意見を伺った後

体系化する。10月中の策定完了を目指している。

◎ゴミ収集

問 津和野地域でゴミのステーション化が進められたが、この件についても高齢化の影響が出ている旧津和野型（個別収集）が住民サービスの観点からはベストであると考えるが、町長の考えはどうか。

答 ゴミ収集業務の効率性、地域間格差による不公平感の是正、分別・減量意識の高揚等の観点から行っている。まずは、地域での相互扶助や減量化に取り組んでもらいたい。しかしながら、実際に運搬が困難な場合は公平性を保ちながら特例として個別収集を検討したい。

その他の質問

※文化財産



守らなければならない大切なもの

◎津和野高校を守るための対応

問 津和野高校が1クラスになれば、理科の教員が1名となり、国公立大学等への進学が困難になる。このたび全国から生徒募集を始める等、高校存続のために最大限の努力をされている。支援係の役割と津和野高校中高一貫教育推進補助金の主な活用用途、高校の支援をどう考えるか。

答 現状で何もしなければ、2学級から1学級になる可能性は大であると考ええる。支援係は、2学級維持のために何が必要なのか検討することと、中高一貫教育の推進である。交付金は、後援会便りやチラシ作成、学校訪問の旅費等の経費として使用し、支払先は後援会にしたい。中高一貫教育の推進については、県の動向を注視しながら、町の雰囲気作りを後援会と連携をしながら進めたい。

◎地域医療を守るための対応

問 津和野共存病院では、2



岡田 克 也

名の内科医師で救急対応をしておられる。調べたところ、平成21年度の救急搬入患者数は178名であった。救急告示病院である六日市病院が255名であったことから考えれば、町の医療を守るために、医師や看護師等のスタッフがいかに関与的に尽力されているか分かる。そのおかげで町内でも多くの命が救われている。しかし、医師の体力も限界である。町の医療を守るために、どのような支援を考えているか。

答 医師・看護師確保対策に取り組むと同時に、地域医療を守るために頑張っていたこと、支援策を検討することと、支援策を検討することが必要だと考える。町に必要な医療部門であり、橘井堂として不採算部門になるものについては、政策的医療交付金として対応し、支援したい。

障害者に対する行政のゆき届いた支援を



竹内 志津子

◎国民健康保険

問 国保税値上げが提案されたが、医療費を下げる方策等を考えないのか。また国に対して負担割合を50%まで戻すよう、県や他の市町村と連携して要求する動きがあるか。

答 本町の一人当たり医療費は県下で5番目に高く、一人当たり保険料は4番目に低い。先日確定した基準所得額は大幅に減額で保険税額の不足が生じる見込みとなり、保険税値上げの提案をさせていただいた。医療費の抑制策に取り組み、歳出削減に努力したい。現時点でも相当な重税感があることを受けて、改善に向けた国等への働きかけを検討していく必要性を認めている。

◎子宮頸がん予防ワクチン接種費用の助成

問 このがんはウイルスの感染で発症し、ワクチンで予防できる唯一のがんである。

ワクチン接種は10歳代の女性を対象で、3回の接種で4

5万円の自己負担となる。

答 本町としては国や県内の状況を見ながら検討したい。

◎障害者に対する支援

問 障害者手帳を持った町民が障害者年金を受給できなかったが、町の責任をどう考えるか。税金の減免措置等は担当者間で連携をとっているか。今後は、様々な制度を周知徹底するため、定期的に家庭訪問することを担当者に義務付ける必要があるのではないか。

答 責任については3月議会での答弁の通り。(行政のプロとしての自覚が欠如していた。)自動車税減免については説明して理解をいただいている。(連携は答弁なし)前回質問に回答した責任もあり、「しおり」を該当者へ配布した。今回のケースを教訓に、町の保健師が精力的に障害者を訪問し対応している。課題は担当課に報告し、対応を協議して解決に当たっている。

合併協定項目の再検証を



後山 幸次

◎本庁舎

問 合併後約5年になるが、両町の長所短所が見えてきた。本庁舎位置現況でのメリット、津和野地域への配置換えした場合のメリットについて。

一、津和野は七百年の町史と文化の町。優れた史跡また多くの先哲を輩出し、山陰の小京都、山紫水明の城下町で百万人の観光客も訪れ観光振興を図り、経済的な波及効果の拡大や独自文化の醸成に官民協同で頑張っている。

二、今の天皇皇后様が皇太子ご夫妻として昭和42年に行啓を仰ぎ、平成15年に再び天皇皇后両陛下をお迎えし、行幸啓の感激を津和野町の新たな歴史として後世に伝える事。

三、県の出先機関の警察署、土木事業所、高校、全国都道府県の議員視察も全部津和野で対応。この現状を踏まえ、経済効果、将来展望を考える時、本庁舎移設に検討委員会を設立し、検討される考えはないか。

答 合併協定時、新町の名称

と本庁舎の位置は住民の大きな関心事であり、現時点で再び議論の俎上にのせる事は一体感に水をあげせるものとなり、両町の旧町意識を呼び戻し、まちづくりを逆行させる危険性を秘めている。現時点では再検討することは考えていない。

◎敬老会の復活

問 合併時、敬老会事業が廃止になり老人の落胆の声は多く聞く。全町全体での実施には無理もあるが旧町毎の復活を検討されたい。

答 楽しみにされていた高齢者の方に残念な事と拝察をしているが、満足度の高い高齢者福祉事業に向けていく事を約束し、敬老会事業の復活はこれまでの方針を引く継ぐ。

その他の質問

- ※スポーツイベントの復活
- ※伝統文化財の国指定
- ※伝統芸能の存続
- ※津和野庁舎に建設課配置
- ※公共事業

自治会、伝統行事、伝統文化等に支援を



米澤 宏 文

◎自治会支援

問 4月に新設された、「まちづくり政策課の自治会支援に関すること」とはどのような支援をされるのか伺う。

答 「地域課題等アンケート調査」を実施し、地域の実情に応じた財政的支援や人的支援の支援策を構築し施策の展開を図ることとする。

問 近隣の益田市や吉賀町では既に全自治会に交付金が出されている。その額は益田市、吉賀町ともに自治会戸数50戸で、ほぼ同額の約15万円位である。津和野町としても交付金又は補助金支援の考えはあるか。

答 連合自治会に対し17万5千円の交付を予定している。

問 補助金の財源としてここ近年、財政調整基金と減債基金の年度末残高は12億円ある。この内半分の6億円を繰り上げ償還すると地方債との利子の差は約900万円となる。これを自治会補助金に充ててはどうか。

答 諸般の状況から繰り上げ償

還は大変きびしい。

◎伝統行事等の補助金

問 鷺舞、流鏑馬、奴行列、田植え囃子、盆踊り、石見神楽等の町を地域を元気にさせる保存会や団体に補助金を出して頂きたい。どの会や団体も存続に苦勞している。無形民俗文化財補助1万円はあまりにも少ないがどうか。

答 9団体に8万6千円交付予定、増額は特に考えていない。財政状況がよくなれば考える。

◎観光対策2点

問 津和野大橋下河床の掘削をし、鯉の群れる津和野川の復活を望む。観光名所が一つ減っている状態である。

答 道の駅なごみの里裏、工事中の柿木津和野停車場線の広大な法面を芝桜等の植栽で観光名所を増やしてはどうか。

答 河床掘削は観光面で可能か津和野土木事業所と協議する。法面の植栽は県知事要望事項の一つとしている。

CATV 地上波2015年3月まではアナログ放送も



小松 洋 司

問 「サンネットにちはら」は、平成23年度から吉賀町までケーブルを延長し、津和野町、吉賀町2町により共同利用されるが、公設民営による運営を検討しているか。

答 一部事務組合による公設公営で共同運営する。公設民営は考えていない。

問 役場内各課や住民からの投稿ビデオによる受け身の番組作りが目立つ。スタッフ自ら作る攻めの番組作りのため、職員研修を実施するのか。

答 役場内各部署の職員が番組作りをするということは、ある意味「攻め」の番組作りと考える。多くの町職員が関わることで、結果的に少人数での運営が可能となっている。番組作りのための技術研修はケーブルテレビ連盟やNHKなどの協力により引き続き取り組んでいく。

問 2011年7月、地上アナログ放送は終了する。サンネットにちはらでは、その際、

現在、放送している地上アナログとアナログ変換したBSやCSはどうなるのか。

答 経過措置として2015年3月まで、デジタルをアナログへ変換して放送する。そのため、アナログ対応のテレビでも今のままで15年3月までは視聴できる。

問 BS、CSについては来年7月までにデジタル化する方針である。デジタル対応型セット・トップ・ボックス(有料)を利用すれば視聴できる。

答 告知端末機交換後、すぐに再交換が行われている。リコールの原因は何か。また、再交換はいつまでかかるのか。
答 雷に強い機種にするための製造過程でミスがあり、正規の部品が使われておらず、交換後すぐの再交換となった。今月末の終了を予定しているが、工事予定日に不在宅等があり、全世帯の終了は8月末を予定している。

入館者1日平均2人の文化施設は見直しを



川田 剛

◎公共交通機関の積極的利用

問 バス路線確保のために補助金を出している状況下で津和野町各課内においては、公共交通機関を積極的に利用しようとする試みがなされてきたのか。

答 私（町長）が就任してから7ヶ月、恥ずかしながら利用していない。職員についてはそういった体制や雰囲気、取り組みはないと認識している。調査し、対応等も考えていく。

◎文化施設の見直し

問 年間2万円の入館料収入である「桑原史成写真美術館」は運営方法を抜本的に見直すべき時期ではないのか。

答 設置及び管理に関する条例や規則に則った運営及び事業を進めている。運営方法の見直しは検討する。

問 アンケートなどを実施し、満足度調査など効果の測定をすべきではないか。

答 現在アンケートではない

が、施設にノートを設置している。アンケートについては検討する。

◎出産と育児の環境

問 次世代育成支援行動計画の進捗状況と、町民に対する周知はされているのか。

答 既に、就学前の方、小学校のお子さん方の全世帯を対象にしたアンケート調査を実施し、取りまとめ、それをもとに平成17年度から21年度までの第一期計画の見直しを行っている。その素案が出来次第、児童福祉審議会へ諮問の予定。今年度から5ヶ年の第二期計画については6月末には策定したい。また、今回実施したアンケートの中で「子どもの遊び場がない」という回答が多くあったので、受け止めたい。

その他の質問

※交通空白地域の定義

※津和野百景図録の作成

今こそ大胆な施策を



沖田 守

問 新町長としての方針、施策、予算が3月議会で示された。特に閉塞感に閉ざされたこの町を、明るい展望の持てる町に、再生したいという強い意欲が伺われたが、具体的施策、手法には残念ながら物足らなさを感じる。そこで、次の点を提言するが所見を伺う。

一、いま何よりも必要とする施策は、自治会組織（集落）の立て直しではないのか。

二、計画されている職員の地域担当制を実施し、各集落の5年・10年先の集落計画を立てさせる人的支援を行うこと。

三、総額1億円の集落支援を3ヶ年実施すること。

答 平成17年の合併時と比べ、この5年間で人口で1050人減少、高齢化率40・9%になり、更に高齢化50%以上の行政区が34・5%となっており、議員指摘とおり、今後更なる高齢化社会の中で自治会の重要性はますます高まり、自治会や地域に対する施策の展開は喫緊の課題と

して認識している。今年度自治会や自治会が組織されていない地域の現状や課題等を把握する目的で地域課題等概要調査を実施する。

今後の施策の展開については、先進自治体が行っているまちづくりや地域活動の支援策、地域や集落のアドバイザー・コーディネーター役を務める集落支援員設置制度など調査研究し、概要調査結果を基に集落や地域の自主的活動により維持・活性化のための財政的支援策や集落再編、自治会結成、地域おこしなどを支援する人的支援策を構築し施策の展開を図る。

職員の地域担当制導入については、受け入れる自治会や地域の意見を踏まえ、又役場職員についても目的、役割を明確化して、制度構築の段階から全庁的な体制で実施する。

総額1億円の集落支援金については、前段答えたことを踏まえ必要な支援を講じていく。

何年たてば実行できるのか



青木 克弥

◎観光の振興

問 本町の産業振興で最も重要な課題の一つは、観光の推進であることは誰しも認めているところである。しかし、急がなければならない観光基盤の整備については、4年前から町の対応について問題提起しているが、その後の状況は。

一、津和野城址の整備
二、津和野駅前整備
三、観光案内板の整備

答 石垣の修復をはじめとする城址の整備については、今後の町財政の見通しや、人的体制づくりが最大の課題となっている。今後、諸問題を改善すべく努力し、早期に事業に着手したい。駅前の整備については、関係期間等における検討も進んでいない状況にあり、今一度検討させていたきたい。観光案内板については、現在調査中であるが、観光の町にふさわしいものを設置するよう努める。

問 これらを具現化するためには各関係団体との連携や、プロジェクトチームの編成等

仕組みを考え直す必要があると思うが。

答 縦割り行政の壁を越えて実行力のあるものにするため営業課を設置したので逐次、取り組んでいく。

◎建築関係専門職員の配置

問 本町の建築に関係する事業の推進、及び実施について様々な問題をはらんでいる。これらの最も大きな要因は、

庁内に専門職員がいないことに起因している。早急に建築関係専門職員を配置すべきと考えるが、どの様に考えているか。

答 建築関連の事業について支障をきたしていることは同意見である。今後、まずは民間建築士と有償による協力関係を構築したい。

※口蹄疫の防疫体制の準備については、十分出来ているとの回答であった。

文 化



道 信俊昭

◎津和野郷土館

問 町は、町内に点在する文化財の把握調査を今年で終える。3年間で推定を含めて約4000点。

一方、民間では「歴史と文化を守る会」や「ボランティアグループ」などの団体、あるいは有識者が津和野町の歴史と文化を支えている。

ところが現在は官と民がうまく融合していない。

そこで私は提言する。津和野郷土館を「文化研究室」と称し、文化の拠点とする。組織は「有識者」「文化関係職員を集約」「民間協力員十数名」のトライアングル。

答 少し前まで教育委員会は郷土館に置かれていた。具体的にぜひ検討したい。

◎津和野駅前の花壇

問 今の津和野駅の正面はボランティアの方々がプランターで季節の花を育てている。ところが、下がアスファルトで照り返しが激しく、毎日

の水やりが重労働だ。

専門家の見積りでは、36万円位でアスファルトを取り除き、低木と花をあしらった可愛い花壇ができる。

観光津和野の「おもてなし」をぜひ実現させたい。

答 指摘の場所はJRの所有で町が管理している。早速JRに確認をとりたい。

◎外国語による看板

問 外国人観光客が大変多い。外国語を併記した看板を設置する意志があるか。

答 十分にある。

◎夢のある放送

問 ケーブルテレビで、出産や結婚・Uターン者など夢のある放映もすべきだ。

答 放送審議会で検討する。



請

願

●広域基幹林道「笹山山入線」完成に伴う国道9号線アクセス道路早期取り付けに関する請願

【提出者】

笹山自治会 会長 藤井昌幸

【紹介議員】

米澤若文、青木克弥、道信俊昭、板垣敬司、川田剛

【趣旨】

広域基幹林道「笹山山入線」が完成するまで2年足らずとなり、交通危険排除と往來の利便性向上のため、早急にアクセス道路の検討をして、国道9号線青野山トンネルから山口側のできる限り青野山トンネル寄りに取り付けを求める。

経済常任委員会付託

●鳥根県石見地方バス路線確保に関する国・県による支援を求める請願

【提出者】

日本労働組合総連合会鳥根県連合会 議長 船田弘一朗

鳥根県交通運輸産業労働組合協議会 議長 土井正明

【紹介議員】

村上英喜、米澤若文

【趣旨】

一、4条バス（路線バス）・生活

バスに関し自治体単独補助拡充のため、一般交付税として「バス交通維持・確保対策予算」を設けるよう国・県に働きかけること。

二、既存事業者が、赤字路線から退出する場合、沿線の関係住民、自治体と十分な協議・合意を経て行うよう積極的な対応を図ること。

三、路線欠損補助に関し、前年度を基礎とした欠損補助交付金の「見込み予算」化を図り、半期毎に既存事業者へ交付すること。四、キロあたり標準原価費用については、既存のブロッツでの上限額を適用する。

反対12 賛成3で不採決

●町民と役場とのトラブルを解決するシステムづくりを求める請願。

【提出者】

長嶺夫子

【紹介議員】

沖田守、竹内志津子

【趣旨】

町民と役場のトラブルを公平に審査し解決する強固なシステムを作ること。

総務常任委員会付託

●障害者年金受給と障害者の生活向上に関する意見書提出を求める請願。

【提出者】

野澤 勝

【紹介議員】

竹内志津子

【趣旨】

障害者年金受給資格がありながら、その制度を知らなかった為に受給しないまま苦しい生活を余儀なくされた。過去に受給すべき年金を遡及して受給できない。障害者年金について県や町の関係機関の指導が一切なく、関係文書も配布されなかったことにより、情報を得ることができなかった。障害者が安心して暮らせる制度への改正と住みやすい津和野町となるための施策を求める。

次の2点は意見書として関係機関に提出

○障害者年金の受給申請を65歳以降もできるような期限を延長することと、受給できなかった障害者年金を5年間遡及して受給できるよう関係法を改正すること。

○障害者手帳の有効期限を定め、更新時に更正状況、体調の確認や管理状況を確認するよう関係法に明記すること。

次の2点は津和野町において実施

○障害者手帳所持者に障害者福祉の内容を周知徹底する下記のものを配布する。

①日本年金機構発行の障害者年金の内容を記載した資料

②県発行の障害者のしおり

○ケーブルテレビや告知端末使用料の障害者割引をする。

賛成14 反対1で採決

意見書

●障害者年金受給と障害者の生活向上に関する意見書。

【提出者】

竹内志津子

【賛成者】

沖田 守

【趣旨】

前述のとおり

賛成14 反対1で可決

議員報酬について

6月定例会において議員報酬5%カットとした。今年度カット総額は、約278万円。

今回の町議会議員一般選挙から定数2名減となり、その報酬を併せると約828万円減の効果となり、町職員の給与カットは一般職員・・・3%カット。特別職・・・15%カットである。皆さんの反響は・・・。



町づくりの視点からオリジナルな教育行政を



京村 まゆみ

◎教育ビジョン策定

問 この町で生まれ育つ子ども達をどんな力を持った人材に育て、どんな町づくりをしたいのか。教育長として理念を公にした上でビジョンを考えていくべきでないか。

答 理念を先に示した上で策定する方法と、委員のご意見の中からテーマを見出す2つのうち後者の方法をとったので私の考えは控える。

問 公募委員を含む委員構成又津高存続、学校再編成等喫緊の課題を抱え来年度の教育行政に反映するためには、人事等考えると10月中の策定が急がれる。進行状況は。

答 応募者14名中5名選任。各団体代表等と計25名の委員で第1回の会議を終えた。今年度一杯で策定する計画で、10月完成は無理。

◎学校再編成計画の進捗状況

問 その後各地域、保護者との協議は。単なる統廃合でなく町全体の学校再編成計画な

ら全保護者に周知すべき。並行し極小規模校児童への具体的な対応策を進めるべきでは。

答 6月に入り説明会をした地域もある。ある程度了解を得られた時点で判断するが、現時点で全保護者への説明は考えていない。又極小規模校のデメリット改善策で小学校間の授業交流や中学校部活交流も予定。しかし時間数の限りの中、学校再編は必要だ。

問 半年間協議がなかったのは残念。反対といわれる地域は、1学年40名となる現状の中、むしろ町全体での積極的な再編を望み様々提案してきた。統廃合のみの再編なら5年先には新たな再編も出てくるのではないか。町づくりに中央一校型がプラスか考えて進めるべきでは。

答 具体的長期展望に立つ全町の計画は策定されていない。

その他の質問

※津和野町非常勤職員関連

条例改正

～国民健康保険税条例の一部改正～

- 賛成** 「国保会計が逼迫しており、上げた場合の平均額も県平均を下回り、周辺市町村と同程度である。利用者負担の原則からやむを得ない。医療費の抑制策をお願いする」。
- 反対** 「上幅も実施時期も急すぎる。段階的に上げるべき」。
- 「余りにも唐突、住民への説明が先」。

主な討論

賛成 10 対 5 で可決

その他の条例制定及び改正

- ★副町長の定数を定める条例の一部改正（2人→1人へ減）
- ★職員の育児休業に関する条例の一部改正（国の改定に伴い育児休業をとれる条件を拡大する）
- ★議員報酬の特例に関する条例の制定（平成22年7月1日から平成23年3月末日まで、議員報酬を5%減額）

上記の条例案は全員賛成で可決

専決処分の承認（5月臨時会）

- ★税条例の一部改正（国の改正に伴うもの）
- ★国民健康保険税条例の一部改正（税率等の引き上げ）

上記は賛成多数で承認

税率改定試算	改正前	改正後
所得割税率	6.2%	6.3%
均等割	1人当り 13,000円	1人当り 19,640円
軽減措置		
7割軽減	9,100円	13,748円
5割軽減	6,500円	9,820円
2割軽減	2,600円	3,928円
例：夫婦と子ども2人 （合計所得 192万円）	国保税年額 302,500円	330,700円
注意：家族構成により、試算額は変わります。		

全員協議会報告

◎感染症外来建設事業状況報告

新型インフルエンザの感染者の急増と、大規模な蔓延を防ぐために、津和野町は国の地域活性化・経済危機緊急対策交付金により、津和野共存病院敷地内に、感染症外来建設事業に取り組むこととした。

○平成21年9月定例会

建設事業費1869万円の補正予算を可決。

○12月定例会

基礎工事における浄化施設等解体には、リネン室・医療廃棄物等倉庫及び酸素マニホールド室の建設が別途必要なため、200万円の予算増額を可決した。

○平成22年3月中旬

その後精査した結果、予算が不足することが分かり、浄化施設解体は断念し、感染症外来及び酸素マニホールド室のみを建設することとした。

○3月25日

入札

○3月26日

建設会社と工事請負契約を締

結した。

○3月26日

橘井堂に初めて計画変更の説明を行った。しかし、橘井堂より、この計画は浄化槽を解体するという当初計画とは違ったものであり、工事が二階病棟に影響を及ぼすために、実施困難であるとの回答があった。

その後、木部公民館敷地内に建設の方向で益田保健所と調整したが、診療所機能が必要であるため、日原診療所に隣接する場所に建設する方向に変更した。

その結果、津和野共存病院には、県の補助事業を活用したエアテント方式で、「初期発熱外来」を設けることとし、日原診療所には「まん延期発熱外来」機能を有する新たな診療施設を整備する方針とした。

今回整備する施設を、将来的には「まん延期発熱外来」機能を有した新たな日原診療所として位置付けることも併せて考えている。

※「まん延期発熱外来」：

一般医療機関を対象とし、流行がピークを迎えた感染拡大期に発生する大勢の発熱患者に対して、迅速かつ円滑に適正な医

療の提供を行う。

※「初期発熱外来」：

入院機能を有する病院を対象とし、感染初期に感染拡大防止と迅速な医療の提供を行う。

◎関係機関とよく協議をし、この事業の早期建設を望む。



日原診療所

請負契約

■工事請負契約

森村地区下水道管布設工事
契約金 5,743万5千円
契約の相手方

(有)ナガヨシ技建

■編集後記

議員改選後初の定例会となったが、振り返って見ると、いろいろと感慨深いものを感じた。私は、議員3期目になるが、新人議員4名と後輩議員4名を合わせると8名の半数になり、先輩議員の仲間入りかなと考え、自分でプレッシャーを感じているのが嫌になる。

議員にとって、自分を主張するのは一般質問であるが、なかなか上手く質問できない、緊張して自分で考えている半分発言できたか反省の繰り返しである。新人議員の初めての一般質問を拝見させてもらったが、落ち着いて見えた。後で聞いてみると、「大変緊張し唇が乾いた、何を云ったか覚えていない」とか聞くとホッとする。

自分の初質問と比べると皆、堂々と自分の主張をしているように感じた。新人議員は、この議会の緊張を維持して議会活動に頑張るよう期待しエールを送りたい。

村上英喜